経済は感情で動く

著者名	マッテオ・モッテルリーニ	発行年	2008年
出版社名	紀伊國屋書店	ページ数	302ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4314010474
コメント	イタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Quuyi ☆☆☆	ちょうど家にもあった本で、人は合理的には動いていないことがよくわかる。しかし、長い、、、			
	全部	300P (250分)		2012/07/25 10:22:21
luffy ☆☆☆☆	この本を読んだら、確かに日常生活で我々の行動は感情で左右することを実感し、経済には感情で左右される、自分自身を知りました			
	137-214ページ	77P (80分)		2012/07/24 12:22:22
とんぺい ☆☆☆☆	講義で扱った本ですね。行動経済学のいろいろな法則などが書いてあります。応用できればいいんですけど、応用のしかたが難しいですね…＾＾；個人的にはエイズ感染確率の話に騙されました。			
	1-218	218P (90分)	161-165	2012/07/22 19:31:33
ahoyan ☆☆☆☆☆	まったく一般の人と傾向が違っていて悲しくなりましたワラ			
	1-133	132P (80分)		2012/06/20 17:38:33
ザ・ニンジャ『順逆自在の術』 ☆☆☆☆	アンカリング等は、どうしようもなく引っかかっていまいますね。 人にものを売る時には使えそうです。			
	13-80	67P (60分)	アンカリング効果	2012/06/05 12:28:07
	非常に頭を使わないと読めない本だと感じた。			

サン ☆☆	「お金についての錯覚」についての記述は個人的に面白かった。			
	1-136	135P (60分)		2012/06/04 21:25:05

俺が村田だ！ ☆☆☆	前半の内容はバイト先の店長に教えたい。後半は脳に関する難しい単語が多くて消化不良。教訓欄はいらないと思った。			
	全部	320P (200分)		2012/05/29 14:52:39

ナラヅケ ☆☆☆☆	人は、ついつい問題解決を簡素化するから、問題の本質をつかめず、罠にはまると著者は言う。 「はじめに」と「おしまいに」の部分を眺め、ぱらぱらと数ページ見たら、なかなかおもしろそうだった。だから、自分がこれは記憶にとどめておきたいと思う箇所に線を引いて読みたいので、購入してじっくり読みます。脳に汗をかく本であるのは間違いなし！			
	13-18、300-316	23P (20分)	305-308	2012/05/27 13:24:50

上からトトロ（仮） ☆☆☆☆	ある事業に対して、すでに投資している場合、その事業がこのまま投資し続けても失敗するとわかったとしても、投資し続ける人が多いということがとても興味深い。			
	13-185	173P (120分)	60ページ	2012/05/08 12:47:21

tottu ☆☆☆☆	時間の関係上、最初の30ページしか読めなかったが、それでも十分おもしろかった。 「1000円がいつも1000円とはかぎらない」という考え方はとても興味深かった。この本に載っている考え方はいろんなところで応用できると思った。			
	1-30ページ	30P (30分)	1-30	2012/05/01 12:59:37

TOPへ

予想どおりに不合理 増補版/不合理だからすべてがうまくいく

著者名	ダン・アリエリー	発行年	2008年
出版社名	早川書房	ページ数	314ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4152091666
コメント	小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。 オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいのに、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。 なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。 そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かやみん ☆☆☆☆☆	値段と価値観、行動など色々な物事が自分たちに影響している事実が、実験とともに説明されていて、とても面白いと思った。 実験の設定の仕方が、シンプルなのが飽きさせなかった。			
	1-430/1-209	639P (390分)		2012/06/26 17:20:27
由乃 ☆☆☆☆☆	達成感を得ることができるのは、最大でどの程度手を抜いた時か、 相手にうまく自分の論を受け入れさせたい時はどうすれば良いのか、 苦しいことと幸せなことは、どのように体験することで効用が最大化するのか などなど、盛り沢山でした。 合理的に行動するには、不合理の特徴をふまえておかねばなりませんよね。			
	1-368	368P (400分)	3&4章	2012/05/27 04:13:04
長野に先いかれた ☆☆☆	ダンアニエリーの経済実験は有名なものが多く、実はTEDのspeechでも取り上げられることが結構ある。 トピックによって好きな部分と好きでない部分がある。 特にいかがわしいと思うところは病気に関する順応のところである。ちょっとサンプルが少ないのとセレクションバイアスに多少問題があるのではと思う。かつ小さな影響をそれほどうまく識別できるのかという疑問がある。 好きなところは低評価に対する仕事のパフォーマンスへの影響とオンラインデートの市場の失敗である。とてもいいエピソードをふくんでおり、より多くの人が知るべきことだと思っている。			

	1-311	311P (180分)		2012/05/16 17:30:52

佐倉 ☆☆☆☆☆	学部時代に「予想どおりに不合理」を読んで、とても面白かったので、今回は「不合理だからすべてがうまくいく」の方を読みました。 やはり、とても面白かったです。 立ち読みページに挙げたのは第2,5,9章ですが、どの章をとっても非常に面白い。 章ごとに話題が違うので、目次を見て気になったところをチョイスするのもありだとは思いますが、微妙に引用していたり、オーバーラップしている部分があって、そしてやっぱり面白いので、全部読んでしまう気にさせられます。乱読したい人にとっては、ある意味で不合理？ 各章で、「こんな実験やりました！」とあっさり書いてあるのですが、これだけの実験をやるには非常に時間とコストがかかると思います。そう考えると、ものすごい本です。 社工の実験経済学も、こんな感じの面白いことを題材にすると、とっても楽しいと思います。			
	全部	390P (300分)	75-113、213-253、312-337ページ	2012/05/01 12:59:37

ken3 ☆☆☆☆☆	とにかく面白かった。 扱っているテーマが面白く、最初から最後まで飽きずに読めると思う。 身近な例を用いて人がどれだけ「不合理」なのかを説明してくれる。 その説明も堅くなくとても分かりやすい。 「競争と公平感」と多少テーマが被っているが、こちらのほうをオススメしたい。			
	9-415	407P (300分)	23-88,113-147,264-294	2012/04/24 12:56:45

takenokonosato ☆☆☆☆	インドでの実験で報酬を前払いにしたら、そのまま逃げられた話は関係ないけど面白かった。 認知科学の結論だけでなく、実験をすることで欠点、疑問点を見つけて、補完して実験を行い、より高度なものにしていく段階も見ることができてよかった。			
	29-74	45P (40分)	66-69	2012/04/24 12:34:30

TOPへ

ヤバい経済学/超ヤバい経済学

著者名	スティーヴン・レヴィット&スティーヴン・J・ダブナー	発行年	2007年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	379ページ
値段	2,000円	ISBN	978-4492313787
コメント	行動経済学系の本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。超ヤバい続編もどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
UT ☆☆☆☆	犯罪率の減少に意外な仮説が用いられており面白かった。			
	1-18, 61-100, 137-172	94P (75分)	137-172	2012/07/05 15:05:36
wors ☆☆☆☆	分析において重要なのが視点であるということがよく分かる。 もしかしたら〇〇なんじゃないか？と思った時に それが起きる要因を考えて情報をピックアップすることで真実がわかるということを書いてあり面白い			
	1-56	56P (40分)	1-	2012/05/22 10:52:49
F-H304 ☆☆☆	今日の世界では常識的だと思った行動をして生きている人がほとんどであると思うが、その常識が間違っていたり新しい見方について考えさせてくれる本である。また、大相撲の八百長と学校の先生との違いなど、我々が普段考えることのない切り口で考えが述べられているので読むと新鮮さを感じることが出来るだろう。			
	1-379	379P (100分)	なし	2012/05/08 18:07:14
きちきぱ ☆☆☆☆	翻訳が軽快で読みやすい。ただタイトルは、本文中であたかも実在の学問かのようにFreakonomicsと使うのだから、「酔狂経済学」とでもした方が良かったのではなかろうか。 相関と因果を吐き違える他の分析者を痛烈に批判し、自身のバタフライエフェクトの確かさをデータを用いてどんどん証明していくのは爽快。 自分も適切にこういう分析が出来なければ、と思う。 相撲について触れている場面があるが、「大相撲の経済学」がより詳細に分析しているのでこっち			

	がおすすめ。			
	「ヤバい経済学」i-iiv,1-65,101-171	144P (120分)		2012/05/01 16:56:33

長野に先いかれた ☆☆☆	Freakonomicsのほうは学部で読んだので、Superをみてみた。 どちらもミクロ計量経済のおもしろさがわかる本になっている。(レヴィットの論文を読んだことはないが、この手のものはミクロ計量ではやりな気がする) 特に売春のコンテンツ価格の違いは、人々の行動のインセンティブがどこにあるのかを考えさせられ、とてもおもしろい。某T准教授もいっていたが、売春の分野はデータが手に入れば相当いい材料となると思う。			
	1-207	207P (70分)	23-70	2012/04/25 12:54:09

TOPへ

使える！経済学の考え方

著者名	小島寛之	発行年	2009年
出版社名	ちくま新書	ページ数	224ページ
値段	777円	ISBN	978-4480065094
コメント	ハルサーニの定理がやっと分かったよと某ゲーム理論家の先生。山室はアマルティア・センに少し近づけた気が。 そんなふうに巨人たちのエッセンスをコンパクトに届けてくれる一話完結入門講義の赴きです。「法哲学」のおともにも最適。 例題、解いてみる？「ピッチャー１杯分のビールを、形の異なるグラスを持ったｎ人に公平に分けるには？」 早くしないと泡が消えちゃうよー。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Quuyi ☆☆☆☆	経済学を普段の生活の中で意識しながら活動できたらかっこいいけど、まーなかなか難しいなと思う。			
	1-65	65P (100分)		2012/07/29 20:53:08
takenokonosato ☆☆☆	最近ジニ係数についてよく聞くので、そこのところを読んだ。 消費税増税じゃなくて累進課税を早くしてほしい！			
	112-144	33P (30分)	112-144	2012/07/21 17:01:33
luffy ☆☆☆☆	「どうすれば自由・平等・幸福が達成されるか」まで踏み込んで論証しようとしている本です。議論をわかりやすく単純にしつつも、一定の数理的厳密さを保った説明がわかりやすい。			
	12-86ページ	74P (40分)		2012/07/20 14:18:13
俺が村田だ！ ☆☆☆☆	序章だけしか読んでないけど、面白そうな本だと感じた。 ビールの公平な分け方は有名な方法だけど、選ぶ側の人が有利だと思う。			
	1-28ページ	28P (15分)		2012/07/17 11:08:55
由乃 ☆☆	効用関数の誕生につられて読みましたが、そこはいまいちでした。 自由イコール選択の大さ、というのは宇佐美先生の積極的自由の話と重なって面白かったです。			

	35-38.101-105	9P (6分)		2012/07/03 13:14:04

20代男性 ☆☆☆☆	経済学の本というよりも、政治哲学（自由・平等・正義）の内容を経済学的手法で読み解くものに近い気がした。全体的に分かりやすいが、数式が多く出てくるので、縦書きでなく横書きにすればいいのにと思った。			
	1-170ページ	170P (150分)	第3章	2012/07/03 11:37:43

F-H304 ☆☆	これは、読んでいて「なるほど！」と思うところがあったが実際に社会で使えるのかは個人的にはなぞな本であると思った。ただ、経済の在り方を理解するうえで、内容は本の厚さの割にはしっかりしているのでそれはいいと思う。			
	1-224	224P (75分)	なし	2012/06/12 18:18:04

onion ☆☆	だんだんよくわからなくなって、途中で挫折しました。 使えるかってきかれると、うーんって感じでした。			
	1-170	170P (120分)		2012/05/28 20:05:35

UT ☆☆☆	経済学の本ですが、ゲーム理論の本を読んでいるようでした。			
	11-86, 205-230	102P (90分)		2012/05/26 09:15:48

佐倉 ☆☆☆	全く「経済学の考え方」を知らない人にとっては内容的に厳しいだろうし(新書で数式を多用するのはきつい)、「経済学の考え方」を知っている人にとっては冗長で読みづらい、微妙な本であった。 (一応)知っている側としては、経済史を全く学ばない東工大において経済学を学ぶにあたって、その原点となる先人の思想を知ることの大切さを考えさせられた。 また、経済学は金儲けのためだけの学問ではないという主張にも共感しました。			
	1-53, 145-173ページ	82P (120分)		2012/05/08 12:39:17

ken3 ☆☆☆☆☆	幸福、平等、自由などの抽象的な概念に対する数学的アプローチを解説してくれる本。 内容は分かりやすく、数学を使う動機も丁寧に説明されている。 生臭く、感情的になりがちな概念だからこそ数学を通して冷静に考えるべきなのだと思う。 オススメはアマルティア・センの４章と著者自身の終章。 センの主張(証明)した「リベラル・パラドクス」には衝撃を受けた。			
	7--235	229P (180分)	87-110,205-230	2012/05/04 16:57:20

サン ☆☆☆	経済学をある程度かじっている人にとっては読みやすいと思われる。 知識の定着にいい本だと思う。			
	87-203	120P (60分)		2012/05/01 14:53:03

上からトトロ（仮） ☆☆☆	アカロフって名前を見かけたのでそこだけ読んでみた。 「学校教育制度が格差社会を助長する」 「協力行動をとるプレイヤーがなぜ裕福であるか」 てところが興味深かった。			
	206-230	25P (30分)	とくになし	2012/05/01 12:57:27

だもん ☆☆	経済学の目指すものを知るのにはとってもいい本だと思います。 ただ、数式や変数が縦書きで書かれているので、とっても読みづらいです。			
	206-230ページ	25P (20分)		2012/05/01 12:53:40

ボトムズ	経済学を全くやったことがないので新鮮ではありました。 経済学者が普段どのようなことをしているのかが垣間見えたような気がしました。 しかし全く使えないと思います（笑）

長野に先いかれた ☆☆	簡単に書かれているようで理論に忠実。 確認のために目を通すのはいいけど、経済学の内容としてははっきりいって面白くない。どれもこれもオーソドックスのものすぎる。 初学者はこれで興味をもつのだろうか、疑問。 ショケ期待値とマックスミン原理のつながりは興味深いが、ショケ期待値を論文で見る機会がそもそもあまりない。			
	1-170	170P (70分)		2012/04/22 02:00:38

TOPへ

競争と公平感

著者名	大竹文雄	発行年	2010年
出版社名	中公新書	ページ数	245ページ
値段	780円	ISBN	978-4121020451
コメント	何を以て「公平」と認定しますか？ 社会が大きく壊れてしまった3・11以後、この問いはとても切実に響きます。 職業や賃金は能力に応じるのが公平？ でも、努力と能力は比例しないわけだから、がんばっても低賃金、怠けても高賃金になっちゃうけど、それでOK? 諸外国と日本との価値観の違いなど、データをもとにたくさんの問題の切り口を提示してくれます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
みーるすとーん ☆☆☆	若干文体が硬いので読み辛い感はある。 プロローグとエピローグだけでもそこそこの内容があるが、やはり本文を読んだ方が良さそうだ。 時間に余裕ができて、気が向いたら本文を読むのもよさそう。			
	プロローグ、エピローグ、あとがき	24P (14分)		2012/07/31 22:45:09
luffy ☆☆☆	非常に読みやすいです。どの国でも不公平があるけど、中国で公平のことなんて絶対存在しない。			
	1-60	60P (45分)		2012/07/26 15:14:10
かやみん ☆☆	色々な小話が沢山あってちょっと読むにはちょうどいいかも。 ただ、いまいちその章の題名と内容がつながってなく、何を伝えたいのかよくわからない印象。			
	i˜48,80˜95	75P (40分)		2012/07/13 17:00:05
由乃 ☆☆	最初の一部だけ読んだら、日本人はあれもこれも嫌だって言ってる印象をうけました。			
	1-30	30P (20分)		2012/07/03 13:02:16
w ☆☆	市場主義に対する日本人の変な感覚、興味深いです。			
	1-78	78P (60分)		2012/05/22 13:03:25

UT ☆☆☆	市場主義というと嫌なイメージが湧く人が多いが、今の生活の根底にあることを認識できる。			
	1-78	78P (65分)	鵯-2	2012/05/20 05:21:45

とまと ☆☆☆	競争の短所ばかり習い、ありがたさを学ばなかったことを痛感しました。今の小・中学生は私世代以上に競争を避けているので、“おかしな”日本人の感覚はさらに強くなるのでしょうか。			
	プロローグ-116ページ、136-201ページ	185P (180分)	71-78ページ	2012/05/12 18:39:12

ahoyan ☆☆☆☆	様々なところで議論されているテーマを統計データを用いながら解釈をつけている作品。 結局のところ、競争によって生じる格差は国家の政策によって埋めるほかないと考える。			
	1-156	155P (120分)		2012/05/12 18:12:36

onion ☆☆☆☆	コラム仕立てで読みやすく、また具体例が多く、なるほどなーってことが多かったです。個人的には立ち読みポイントにした日本人の変な感覚の話が面白かったです。日本人って独特の感覚があって不思議な民族だなと思います。我ながら。			
	1-245	245P (200分)	5-12	2012/05/08 16:20:22

長野に先いかれた ☆☆☆☆☆	尊敬する経済学者の一人。新書でも本当によく書かれている。 日本国民の考え方は結構strangeかもしれない。所得が何で決まるかで学歴と才能の項目でアメリカとこんなに差があるの注目すべき一つの点だと思う。なにかいろいろな目標に対してストレートに考えてないところが面白くもあるし残念でもある。			
	1-189	189P (120分)	64-78	2012/05/02 15:45:19

ken3 ☆☆☆☆	独立したコラムを集めた本なので、見かけによらず軽く読める。 説明も具体例などを用いて分かりやすい。 特に立ち読みポイントに指定した章は色々と考えさせられる内容になっていると思う。 自分自身にとっても「貧困」、「格差」、「公平感」など聞き慣れた言葉が読後は考えと見方が変わった。 ただ、「競争と公平感」という題名のわりに関連したコラムが少ないように感じた。			
	25-78,81-143	117P (120分)	125-143	2012/04/19 19:34:19

Azel ☆☆☆☆	トレンドに流される親に育てられる子供は不運 いろんな意味でね いくら東工大だからといっても将来家庭を持つ人は少なくないはず。幼少期の発達はその後の人生を大きく左右するので、この本の例を心に留めておくだけでも結構違うのではなかろうか			
	81-116 209-218	46P (60分)	81－87	2012/04/12 22:36:43

TOPへ

大相撲の経済学

著者名	中島隆信	発行年	2008年
出版社名	ちくま文庫	ページ数	237ページ
値段	680円	ISBN	978-4480424280
コメント	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。 実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
とんぺい ☆☆☆	大相撲はほかのプロスポーツに比べ、閉鎖的で非合理的であるというイメージが近年の相撲界の出来事から自分の中でイメージされてたけど、そのことについてこの本でよくわかります。特に給与構造が他のプロスポーツと異なり、2章に細かく書いてあります。 また、近年話題となった「八百長」のことも6章に書いてあるので、興味のある人はぜひ。 個人的には、引退した幕内力士の7割が中卒であることに驚きました。			
	1-129	130P (90分)	2章、6章	2012/07/22 16:01:44
みーるすとーん ☆☆☆☆	角界の構造について経済学の観点から分析した本。（当たり前のことなのかもしれないが、）昔からの伝統というのも案外合理的にできているものなのだな、ということを認識させられた。			
	すべて	237P (138分)		2012/07/17 21:15:58
yabaku ☆☆☆☆	相撲を見て楽しいと思うのは、独特な相撲の世界の経済システムが成立しているからなのか、と感じた。 単純な勝敗を分かつスポーツと観客を楽しませるパフォーマンスとしてのスポーツと両側面を上手く持ち合わせるのは、非常に難しい事だと思った。			
	1-96	96P (60分)		2012/07/09 16:06:01
ken3 ☆☆☆☆	相撲という競技は他のスポーツとは少し趣が違うのだと思う。 この本の「八百長」に関する章を読んでそう強く感じた。 スポーツがいつでも真剣勝負でなければならないという観点からは確かに八百長は不正行為だろう。 ただ一方で相撲はビジネスであり、観客にとって真剣勝負が常に面白いとは限らない。 また「八百長は組織を維持するための協調行動の一面もある」という筆者の主張にも納得できた。			

	とにかく、相撲にかぎらずお金をもらうプロのスポーツというのは「真剣勝負」という観点だけで議論をするのは難しいのかもしれない。			
	75-129	55P (60分)	111-129	2012/07/04 15:12:56

onion ☆☆☆☆	大相撲の独特な世界も経済がちゃんと成り立っていて、思わず納得しました。相撲の生き残る道として伝統文化で生き残るべきだという話はそうだなと思いました。プロスポーツとしての魅力は見劣りしてしまいますが、長い年月をかけて培ったあの雰囲気は文化です。 一度両国でみてみたいです。			
	1-237	237P (180分)		2012/06/21 13:10:39

midnight express ☆☆☆☆	朝けいこをしたあとちゃんこを思い切り食い、昼寝をするのが理想的な太り方だと知った。私みたいな中途半端なデブじゃなくて、あそこまでデブになるには年月を要するらしい。あと、意外と相撲取りになる条件って易しいと知った。あと1歳若ければ、相撲取りになれたかな。			
	全部	237P (50分)		2012/05/22 17:24:33

gorugo13 ☆☆☆	『最近引退した幕内力士の第二の人生』というアンケートで 死亡６％・・・・ 高い！！！			
	21-127	105P (40分)	86-87	2012/05/16 12:21:42

ペンネーム考え中 ☆☆☆☆	部屋制度から八百長疑惑まで、大相撲にかかわるあれこれを、経済学的な観点から記述した一冊。 なぜ，大相撲では，一般人には不可解な事件が起こったり、意味不明な決着にが落ち着いたりするのだろうか。 それを経済学から見てみると，すっと腑に落ちる。そんな本でした。			
	1-237ページ	237P (180分)	なし	2012/05/15 22:49:36

darvish ☆☆☆	相撲は個人戦にも関わらず、総当たり戦ではない。 野球のFAのような制度は相撲にはない。 野球選手とかとは異なり、高い位置にいるだけでは、高収入が得られない代わりに、現在の地位が低くても過去に実績があれば、高収入を得ることができる。 どうして相撲界では上述したようなことになっているのか。この本を読めばわかります。			
	1-56ページ	56P (20分)	なし	2012/04/23 23:46:51

TOPへ

動的平衡 1・2

著者名	福岡伸一	発行年	2009年
出版社名	木楽舎	ページ数	240ページ
値段	1,524円	ISBN	978-4863240124
コメント	いやもう、生物の話って、なんでこうもおもしろいんだろ、と夢中です。 生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。一話完結型で、つまみぐいしやすいのも、うれしい。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
moe273g ☆☆☆☆☆	以前著者の方がテレビに出演して本の内容を話しているのを聞いてぜひ読みたい！と思っていた本で、思っていた以上に楽しむ事ができました。動的平衡の強さというのをなんとなくだけでなく論理的に感じる事ができました。			
	1巻→全て 2巻→全て	610P (450分)	第８章の「生命は分子の『よどみ』」	2012/07/30 15:50:17
takenokonosato ☆☆☆	全体は部分の総和ではない。 作者はこれを １＋１＝２＋時間に由来するもの としている。 それを科学の力で解明しようとすると何百年かかるのかなと思った。			
	４章	21P (30分)	135-138	2012/07/21 17:33:08
俺が村田だ！ ☆☆☆	生命はミクロな部品の組み合わせではないという考え方が新鮮だった。太らない食べ方は参考にしたい。			
	1-202（一巻）	202P (120分)		2012/07/17 10:47:17
F-H304 ☆☆☆	一章ごとに全然違うことが書いてあるが、どれも分かりやすく、読んでいて引き込まれる楽しい文章でした。			
	1-240(2巻)	240P (60分)	なし	2012/07/03 20:31:11
oiltaro	おもしろい！読んだ後に世界が違って見えるということを体感できた。			

☆☆☆☆☆	1-240	240P (120分)	1-120	2012/07/03 12:39:24

ザ・ニンジャ『順逆自在の術』 ☆☆☆☆	筆者は理系なのに文を書くのがとてもうまい。 頭のいい人ってこういうことなのかな。			
	1-20	20P (20分)		2012/07/02 21:40:07

bird ☆☆☆☆	食品から記憶まで、体に関するいろいろなケースを持ち出して科学的な考察からの結果を分かりやすく伝えていて面白い。僕もこんなように伝えられるようになりたいと思った。 コラーゲン添加食品の話では、コラーゲンは胃の中で分解されるから食べることに意味はないと女の子に言ったら「なんでそういうこというの！？」と怒られたことを思い出した。あれは僕が悪かったのだろうか・・・			
	1-251ページ	251P (120分)	76-70	2012/06/25 17:02:15

onion ☆☆☆☆	動的平衡いいですね。動いてるのにちゃんと平衡に保たれていて、自然界は素晴らしく制御されてるなと思います。分かりやすい言葉で丁寧にかかれているので、納得しながら読めました。 「なぜ学ぶことが必要なのか」この答えは自分で見つけるしかないと思いますが、素敵なヒントが書いてありました。			
	1-254	254P (200分)	57-60	2012/05/28 20:17:26

とまと ☆☆☆☆	生命現象は物質の動的平衡で･･･ 文系的な一般論を一蹴する場面が多く、理系な考え方ががっつり前面に出ていました。「なぜ、学ぶことが必要なのか」という学生への話が面白かったです。			
	40-138ページ、196-222	124P (180分)	57-61	2012/04/25 14:26:20

かやみん ☆☆☆☆☆	生物の話が章ごとに完結する形で書かれており、おもしろい。 本の題名にもなっている動的平衡という著者の考えが、自分にとって新しく、なるほどと思った。			
	1:全て 2:全て	494P (360分)		2012/04/15 00:50:28

TOPへ

働かないアリに意義がある

著者名	長谷川英祐	発行年	2010年
出版社名	メディアファクトリー新書	ページ数	189ページ
値段	740円	ISBN	978-4840136617
コメント	働きアリって言ったって、20%しかマジメに働いてないんだぜ。そこまでは有名なお話。 じゃあ何で20%なの？ 残りの80%は何のために存在するの？ と問い始めると、いっけん非効率なシステムがじつはコロニーとしての優れた生き残り戦略だったことが分かってきます。 サボる口実を探したい時にもどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Quuyi ☆☆☆	早稲田時代の友達がアリの研究をしていて、勧めてきたのでま一読んでやるかという感じで読み始めた。僕の口には合わなかったみたい。			
	1-60	60P (60分)		2012/07/29 20:55:15
o.p.p. ☆☆☆	”身につまされる最新生物学”とあるように、アリなどの社会がどのようにして回っているのかを生物学的観点から、わかりやすく、かみくだいて教えてくれる本。 エリートだけで構成されたグループよりも、 優等生からおバカさん（実際はバカなわけではないのだけど）まで、 アリ達が幅広い「個性」を持っていたほうが実は生存戦略的に効率がいいという実験結果は面白い。 各章の最後には章ごとのまとめが箇条書きされているので、時間がない方は１章とそれだけ読んでもいいのでは。			
	１－2章(25-80)，終章(171-185)	71P (80分)	44-46	2012/07/11 13:29:23
F-H304 ☆☆☆	自分が働かなくても社会はどうにか回っている、ということが強く感じることが出来る。ただ、さぼりとして社会から痛い目で見られる野は個人的にはあまり望まず、また極端に働きすぎて過労死するのも嫌なので、社会にある程度貢献できる仕事に就きたい。			
	1-189	189P (45分)	なし	2012/07/10 19:58:28
	最近の研究でわかった真社会生物の性質について、人間社会に例えながら解説した本。一般の人向けであるらしく、各章末にまとめが用意されているなどして非常にわかりやすい。人間社会に例え			

みーるすとーん ☆☆☆	ている部分はあまりひねりもなく特筆することもないので、単純に生物学の研究について知りたいときに読むのがよいと思われる。 内容とはほとんど関係ないが、この本でいう「一般の人」が明らかに「会社員の男性」であったので、大学院生の私としては若干のアウェー感があった。			
	すべて	189P (128分)		2012/07/02 21:46:24

midnight express ☆☆☆	タイトルに惹かれて読み始めました。アリの社会性は非常に興味深いですね。働かないアリもアリってことです。			
	ほぼすべて	180P (60分)		2012/06/27 11:53:59

由乃 ☆☆☆☆	人間社会に当てはめて考えられるものが多く、めちゃくちゃ面白かったです。 働かないアリは、サボりアリではなく、”他の個体が働いている間は”働かない性質を持つアリでした。 フリーライダーは種を絶滅させますが、 「他の人がやってくれるなら良いかな」と思う人の存在は、むしろ緊急時への予防策となるものであり、害ではないことが分かりました。 個体閾値がばらばらなのに、進んで仕事をやることばかりが賞賛される人間社会はちょっと変なのかも？			
	1-185	185P (150分)		2012/06/20 14:08:56

bird ☆☆☆	アリの個体差と働かないアリの存在によってアリは存続出来ているらしい。 生物の進化というものは個か群かによって全く戦略は違うが、どちらもまあまあうまくやれているということが面白い。			
	26~79,110,170,	56P (50分)	章末ポイント	2012/06/14 11:02:02

ナラヅケ ☆☆☆	上司がいないアリの世界。う～ん、羨ましいです。人間の世界も同じようになったら、どうなるのでしょう？？想像しただけ楽しいです。			
	52-65	14P (20分)		2012/06/02 15:12:02

tottu ☆☆☆☆	“なにか起きた時のために「余力」を残す”という考えは非常に大事だと思った。会社における窓際族もいざという時には戦力になるので、大切にする必要がある。			
	25-81，111-171	116P (90分)		2012/05/29 20:34:08

とんぺい ☆☆☆	アリの巣に住むアリのうち何割かは全く働かないとどこかで聞いたことあったけど、その理由やそれに関係した話が書いてあります。 個人的にはなんでそうなのか理由を早く読みたかったんだけど、その話になるまで結構かかった気がします。 全部読まなくても各章の最後にその章のまとめがあるので、それの気になることを遡って読んだらいいんじゃないかと思いました。			
	1-109	109P (120分)	各章の最後	2012/05/29 12:59:17

w ☆☆☆	社会性生物の研究は非常に興味深い。 人間社会ってなんだろう、と考えることができます。			
	1-49	49P (20分)		2012/05/29 12:39:12

ダンボール ☆☆☆☆	遺伝子などの生態系の違いだけでこれほどにも蟻と人間の社会構成が異なるとは。あたりまえのように思う人間の社会とは違う合理的な社会のあり方を知ることがとても新鮮。 単純な作業しかない蟻の社会に余力は必要だが、人間の社会は分業で成り立っているからそうはいかないのかも。			
	1-110	110P (90分)	76-78	2012/05/22 12:56:51

サン ☆☆☆☆☆	私にとって今のところ講義が始まって読んだ本の中で最も面白い本である。 が、ほかの方も言っているが、この話を人間社会と比較するのは意味のないことではないかな。			
	10-185	175P (100分)		2012/05/22 10:13:40

プー ☆☆☆☆	働きアリの中にも働かないやつがいるというのは衝撃的な事実かもしれない．だけど，読んでいく中で，確かにそういうやつがいないとコロニー全体を維持していくことは不可能だと思えてしまう． ただ，これが人間社会にも応用できるかといわれると… ちょっと議論に無理があるような気がする．			
	10-109	100P (120分)		2012/05/14 09:07:35

俺が村田だ！ ☆☆☆☆☆	本気でサボる理由を求めて読み始めたので「働きたくないから働かないのではない」という部分では心底ガッカリ。皆さん、表紙のアリに騙されてはいけません。 ただ、内容は知らないことだらけで著者のアリへの深い愛もビンビン伝わってきて非常に楽しく読めました。研究に関する部分は生々しくて特に良かったです。 アリではないですが最も驚いた八の字ダンスを立ち読みポイントにしました。			
	10-141ページ	131P (120分)	29ページ	2012/05/08 23:46:35

とまと ☆☆☆	生物学(生態学)、特に遺伝の話がメインです。人間社会の話を期待して読むとがっかりするかも知れません。 子供の頃アリの巣をじーっと見たり餌を運ぶアリを追いかけてた人なら、とても楽しいと思います。個人的な感想は☆５つです。が、生物に興味がないと厳しいと思い☆３つにしました。			
	1-150ページ	150P (150分)	54-58	2012/05/07 22:27:02

佐倉 ☆	アリの生態についての理解は深まると思いますし、それが好きな人には楽しめると思うのですが、あまりに人間と性質がかけ離れているので、人間と対応付けするには無理があると思いました。 また、アリの生態についての説明も、わかりやすく書こうとしてい過ぎて、逆にわかりにくかったのが残念です。			
	10-53、82-92ページ	53P (60分)		2012/05/03 22:16:29

かっしー ☆☆☆☆☆	働きアリの中には一生働かないものがいるということが書かれた衝撃的な本。しかも、働かないアリは怠け者なのではなく、鈍いため仕事にありつけないらしい。と言うことは、最近増えつつあるニートも実は働く意思があるということなのだろうか。そんなことは無いと思うが。 また、働かないアリが存在するからこそコロニーが成り立っていると書かれているが、それを現代社会に当てはめると、ニートの増加は必然と言えるのだろうか。			
	p25-110	86P (60分)		2012/05/01 12:01:25

	「何の役に立つかわからないことを調べておくことは、社会全体のリスクヘッジの観点から見て意味のあること」 と思えるかどうかが肝だと思います。			

七氏 ☆☆	基本的には昆虫の生態の話です。 人間社会への関連づけも、文章中で若干試みていますが、結構苦しいです。 何より、帯に書いてある「ダメな虫がもたらす意外な効果」があまり意外じゃありません。 これを読んでも、ニートになる言い訳は残念ながら得られないと思います。 昆虫の生態を知りたい！という人にはお勧めです。			
	全部	189P (140分)	2章	2012/04/29 03:47:15

gorugo13 ☆☆☆☆☆	アリの研究を通して、生物の進化の過程や社会のコミュニティの形成などを分析している点が非常に興味深かったです。			
	1-189	189P (180分)	163-169	2012/04/26 12:45:34

hitsea ☆☆☆	どんなに働き者のアリを集めたとしてもその集団の中でまたサボるアリが出てくくるというのは割と有名な話．なぜそうなるかの研究を行い，それを分かりやすく教えてくれるという意味ではこの本は面白い． けれど自分の場合この本の題名よりアリから見えてくる社会の在り方について論ずるように見えたが，実際は研究者が論文をわかりやすく本にしたという印象だった．なので人によっては期待していたものと違うかもしれない．			
	1-180ページ	180P (180分)		2012/04/18 16:01:30

きちきぱ ☆☆☆☆	「若いアリが巣内で安全な、老いたアリが巣外の危険な仕事をする」 「よく訓練された大型アリは戦闘せず、小型アリが戦闘に向かう」 のように、一見人間に当てはめると不合理に感じそうな事実が、アリ社会では合理的に機能している。なるほどと思いました。 「働きアリのうち2割は働かないことを発見した実験は、8h/1dが2カ月続くハードワーク」 働きアリがサボっていることを延々と観察し続ける実験、聞くだけでゾッとします。 「シードバンクとしての大学の役割」 意味のある研究ない研究。そういう側面にも触れている本なので、興味のある人は読んでみて良いかもしれません。			
	1-79ページ	79P (90分)		2012/04/17 21:01:23

TOPへ

友達の数は何人？

著者名	ロビン・ダンバー	発行年	2011年
出版社名	インターシフト	ページ数	253ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4772695244
コメント	お話上手な生物学者さんのおしゃべりを囲炉裏端で聞いているような。 マンモスからベイズまで話題豊富。特に多いのは異性をどうゲットするか系。 恋なんて、男と女の化かしあい。その深淵を覗きたかったら、お役に立てるかもしれません。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
とんぺい ☆☆☆☆	正直、読んでて面白かったのはタイトルとはあまり関係のない、男女の話だった。 というか、タイトルの「友達の数」に関係して話は最初くらいしかなかった？ 面白そうな所をつまみながら読んだので、よくわからなかった。 １話完結ってわけではないけど、それに近いものがあるので、つまみ読みでいいと思う。 面白かったのは男女の話で、結婚や婚活はまだ先にしても、合コンなどで使えるかもなぁと思った。 相手の主張・アピールは信用せず、相手が求めるものから真意を見いだせ！			
	1-25、56-174	144P (120分)	7章、9章	2012/07/24 18:42:14
かやみん ☆☆☆☆	一人の人間が関係を結べるの人数についての話が興味深かった。実際、自分のtwitterでのフォロー数と同じだったのが驚き			
	1-76	76P (60分)		2012/07/20 17:54:33
historians ☆☆☆☆	恋人探しのいい参考になった。是非とも活用していきたい！			
	78-90	23P (20分)		2012/07/10 13:51:32
midnight express ☆☆☆	タイトルに期待した内容と実際が少し違ったが、人類学的な視点からひとのつながりについて考えるのは面白かったです。			
	1-152	152P (50分)		2012/07/05 13:23:20
	内容については読んでのお楽しみということにしておくが、とにかく誰しも人間関係には大なり小			

luffy ☆☆☆	なり悩んでいるはずだろうから、本書の内容は絶対のオススメだ。私も、読後直ちに実行に移していることがある。			
	1-25,115-211	121P (120分)	1-25ページ、115-160ページ	2012/06/20 11:12:56

サン ☆☆☆	最初は、部分読みをしていたが、面白そうなので、ガッツリと読んでみた。 いくつか驚いたことがあったが、その中の一つを挙げてみる。 「IQと体の対称性で相関関係がある」 これは知らなかったので、驚いた。			
	112-247	135P (100分)		2012/06/14 21:24:21

とまと ☆☆☆	皆さんの言うとおり学術的な内容（なのに数値に正確性がないのは残念）なので、表紙のイメージで読み始めると飽きると思います。 赤ん坊への話し方が音楽に通じてるというのは、少し面白かったです。			
	1-74	74P (60分)	70-72	2012/06/07 16:47:12

Azel ☆☆	「僕は友達が少ない」みたいなタイトルにホイホイされて思わず手にとってしまったが、内容にそれほど興味を惹かれる部分がなかった…小鳩ちゃんが頑張って解説している本だったら最後まで読めたかもしれない。			
	2,4,19章	36P (15分)		2012/06/06 03:22:23

wors ☆☆	タイトルのつかみと最初のネタはいいがスグに飽きてしまった。			
	10-27	18P (10分)	11	2012/06/03 17:16:53

TAN ☆☆	意外にそんなにおもしろい本ではなかったです。20ページだけを読みました、すみません。			
	10-30	20P (30分)	なし	2012/05/07 16:44:59

きちきぱ ☆☆	「気の置けないつながりは150人まで」 「この世から突然消えたら、あなたが正気で居られなくなる人は15人くらい」 みたいな数字にどんどん具体例をあげてそれっぽく聞こえるように書いてあるが、それぞれの例はしっくりくるのだが、だからその数字が正確なのかと言うと疑問が残った。 もう少しその数字が尤もらしいことをデータで示してくれれば、と思いながら読むのをやめてしまった。			
	10-41	32P (30分)		2012/05/02 12:26:14

ナラヅケ ☆	タイトルに魅かれて手に取る。目次を見ると、なかなか刺激的な内容である。楽しそうだ、よし読もう！……話の内容が、学術的過ぎてちっともおもしろくありませんでした。 立ち読みポイントとして挙げたところは、納得したところで、なるほどと思わされたので。			
	10-30、56-60	26P (40分)	28-30	2012/04/29 13:54:44

ocean ☆☆☆	人間同士のつながりはせいぜい150人ぐらいでそれ以上は大したつながりを持っていないらしい。でもそのつながりが凄く大事なんだということを、人間だけに限らず色んな動物の例をとって説明してます。正直なにを根拠にそのダイバー数だとか決めつけてんのか胡散臭いと感じました。でも、異性との関係の章でビッチが脳みその観点から頭が悪いという論は少し面白かったです			
	1-80	80P (80分)		2012/04/27 18:47:19

七氏 ☆☆☆	異性関連の章は、多分既知のことが多いので読まなくても良いかも。 後半の文化・倫理・宗教と、私たちの脳や思考に関係する部分は、それなりに面白いと思った。 動物と人間の違いは、どのレベルの世界まで認識できるかということ。動物は自分の今体験している世界しか認識できないのに対して、人間は他者の気持ち、それをとりまく社会までもを想像・認識することができる。この差が、文化や倫理観、宗教を生む要因になる。 動物実験の話なども確からしさを出すために出てくるが、学術的というよりは、お話として出てくる程度。厳密性は無いけれど、知っておくと「へえ」と思える、そんな話です。 多分、飲み会の席なんかで話すにはそれなりのネタになると思う。 詭弁の材料にも。			
	77-90, 176-209	48P (115分)	17章	2012/04/11 21:57:33

TOPへ

宇宙は何でできているのか

著者名	村山 斉	発行年	2010年
出版社名	幻冬舎新書	ページ数	226ページ
値段	800円	ISBN	978-4344981881
コメント	宇宙のほとんどはからっぽ？ トンデモナイ！ ダークマターが23% ダークエネルギーが73% なんですね、ホントの話。 超ムズカシイ。でも、最先端をみんなと共有したい、という著者の志が熱い一冊です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
しゃおろん ☆☆☆☆	素朴な疑問に対してどこまで、理論を構築できるのか。物理学者の探究心はものすごいものだろう。最終章は今後の課題を提示していて特に面白い。			
	1-143, 194-222	170P (150分)	第５章	2012/07/29 00:52:10
w ☆☆☆	難しい。この分野は今後どうなるのだろうか。 究極の答えが出る時代はくるのだろうか。 日々、新しい発見がニュースとなっているが、それがさらにゴールを遠ざけている様に感じさせるところが、この分野の面白さだろう。			
	1-226	226P (180分)		2012/07/09 17:58:38
ahoyan ☆☆☆☆	われわれの世界の中で最小の素粒子と最大の宇宙とのつながりを初心者にわかりやすく解説した一冊。ぜひお勧め。			
	1-219	218P (120分)		2012/05/24 13:05:11
20代男性 ☆☆☆	（一応）理系の学生である私でも、読み応えのある本だったので、物理や化学が嫌いな人にはかなり読みづらい本だと思いました。 宇宙が何でできているのか、誰もが一度は考えたことがでしょう。宇宙の大部分は星であると、私は思っていたので、星が宇宙の0.5%分の重さしか占めていないというのは衝撃的でした。宇宙の全体像はまだ仮説の段階ですが、ひきつけられる本でした。 どちらかというと、大人よりも、これから理系の道に進む高校生や中学生にお勧めしたいと思いました。			

	11-58、105-144、193-226ページ	122P (120分)	42-58ページ	2012/05/11 10:07:59

かっしー ☆☆☆☆	宇宙の構成の話から素粒子の話までが書かれた本。 中間子やニュートリノなどなんとなく聞いたことがある単語も出てくるが、物理学をまともに勉強してこなかった僕にはとても難しい内容だった。 かなり難しいけれど、一応は入門書みたいなので、半分くらいは誰でも面白く読むことが出来ると思います。			
	全部	226P (180分)		2012/05/07 21:40:32

R2 ☆☆☆☆	もの凄く大きな宇宙と、もの凄く小さな素粒子。それはウロボロスの蛇のように繋がっている。 現代物理学が今どんな問題を扱っているのか、その最先端に触れることができ、興味深く、読み応えがあった。 難しい！けど面白い。そんな本でした。 神様もサイコロふって運命を決める事があるんですね。			
	1-226	226P (180分)	12-23、128-130	2012/04/27 21:32:46

かやみん ☆☆☆	物理学による、宇宙構造、誕生へのアプローチの入門書。 詳しい数式とかはぬきに物理学の歴史にそって大筋を説明してくれている。 一通り読むと、物理学の宇宙についての展望が把握できる。			
	1-226	226P (180分)		2012/04/24 13:07:21

TOPへ

はやぶさの大冒険

著者名	山根一眞	発行年	2010年
出版社名	マガジンハウス	ページ数	288ページ
値段	1,365円	ISBN	978-4838721030
コメント	各ページの右端にご注目。パラパラパラ……。 こんな小さな仕掛けからも、著者の山根さんが、はやぶさに寄せる思いが伝わってきます。はやぶさの誕生から帰還まで、ゆっくりゆっくり見つめてきたライターさんならではの思いの結晶。 ――おかえりはやぶさ。君は最後の最後まで大したやつだった。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ge90 ☆☆☆☆	JAXA関連で研究をしているので興味があった. あきらめない技術者の執念もすごいが，事前に設計段階からあらゆる状況を想定して準備していたしたたかさがすごい.			
	1-288	288P (300分)		2012/07/31 21:34:35
wors ☆☆☆	はやぶさというストーリーとしての本といった感覚で 個人的には期待を裏切られたような気分 製作者の思いが伝わってくる本			
	8-36	29P (20分)	まえがき	2012/07/10 15:23:59
七氏 ☆☆☆☆	かなり流し読みでしたが、概略を知るには良い本でした。 はやぶさが頻りにニュースに取り上げられるものの、 その詳細についてはあまり関心がなかったので、 良い機会なので読んでみることにしました。 やっぱり、宇宙ものは、帰還シーンが一番好きです。 サイエンスで特集なんて組まれてたんですね。知りませんでした。			
	全部	288P (120分)	8章 行方不明の冬	2012/07/09 19:31:16
ボトムズ ☆☆☆	機械専攻なのにはやぶさについて何も知らないというのはマズイなと思って読みました。火事場の馬鹿力の素晴らしさがよくわかる一冊です。			

	全部	286P (180分)		2012/06/20 18:15:22

onicapla ☆☆☆☆☆	ゆっくりじっくり全て読みました。はやぶさは名前はきいたことはもちろんあったけれど、どうして「お帰りはやぶさ」とか映画化されるほどなのかはよくわかっていなくて、本書を読むと、満身創痍になりながら何年もかけて帰還するはやぶさの姿に、そりゃ映画化したくなるわ、という気に。でも、オーストラリアにはやぶさが帰還し燃え尽きる歴史的なシーンに対する日本のメディアは残念だった。			
	全部	288P (360分)		2012/06/20 10:10:31

ocean ☆☆☆☆☆	はやぶさがどんな冒険をしたのか、詳しい経緯を知らなかったため手に取った一冊だったが、宇宙彼方の小惑星に正確に着地させる技術やはやぶさの宇宙での状態を把握する通信には、ただただ気の遠くなるような思いがしました。本当に感動しました			
	1-120,180-280	220P (120分)	序盤と後半	2012/06/05 15:46:47

F-H304 ☆☆☆	諦めなければ夢はかなう！と本を読んだ後に強く感じました。はやぶさはイトカワまで７年というとても長い時間をかけて往復し、私たち人間にとってとても重要な発見をもたらしてくれました。途中で行方不明に陥るなどのアクシデントがあっても、大丈夫と信じる技術者たち。その、信じる心の重要性を知ることが出来ます。			
	1-288	288P (60分)	274-286	2012/05/22 18:28:22

かやみん ☆☆☆	はやぶさの時系列に沿ったドキュメント。よく知らなかったはやぶさのこと、成し遂げたことがこの一冊でかなり知ることができた。			
	1~288	288P (180分)		2012/05/21 23:13:49

41 ☆☆☆☆	地球の根源を追い求める事、技術的を追い求める事に貪欲で、あらゆることに対してわずかでも可能性があればあきらめずに対処していく事がすばらしいと思った。 個人的にはあらゆる技術を結集しトラブルにたいして裁断を下してきたプロジェクトを統括したプロジェクトマネージャーのマネージメント力がすごいと思った。			
	1-295ページ	295P (80分)	1-36ページ	2012/04/21 19:40:13

R2 ☆☆☆☆	多くのトラブルに見舞われながらも，7年間の旅を経て地球に帰ってきた「はやぶさ」と，宇宙研の人達の7年間を詳細に知ることができ，その凄さに驚くばかりだった. 想定できる問題に対しては何重にも対策を施し，想定できなかった問題は新たなアイディアや方法で解決していく．本当に凄い. プロジェクトマネージャーである川口さんが「はやぶさ」への思いを綴った文に感動した.			
	1-286	286P (270分)	241-244	2012/04/21 16:53:34

TOPへ

宇宙飛行士が撮った母なる地球

著者名	野口聡一	発行年	2010年
出版社名	中央公論新社	ページ数	120ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4120041839
コメント	富士山がフジツボみたいっっ！ 誰がうまいこと言えと…… いやもう、ワンカットごとに、なんなんだこれは、どうしてこんな色なんだ、と驚きが尽きません。マッシュルームみたいな月や、小石みたいなエアーズロックや……。野口さんプロデュースの宇宙散歩、お楽しみください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ge90 ☆☆☆☆	すごい映像美．そしてISSって思ったより地球に近いんだなぁと思った． 個人的にNikonのカメラを使っているのでなんだかうれしかった．			
	1-120	120P (40分)		2012/07/31 21:37:25
ken3 ☆☆☆	桜島の噴火が宇宙からでも見えることにびっくりした。 地球は青いんだなと実感した。			
	1-119	120P (20分)		2012/07/19 14:52:38
上からトトロ（仮） ☆☆☆	猫！！島の形が可愛いなんて。 ニコンのカメラの宣伝にもなりますね。 宇宙からの景色を眺めていると自分の悩みなんて小さいものだなぁと物思いにふけったりしました。			
	全部	120P (30分)	オーロラのところ	2012/07/17 20:15:20
きちきぱ ☆☆☆	まあ、凄い。 地球ってこんな風に見えるんだ、宇宙ってこんなんになってるんだ。それは、凄い。 でもなにより、宇宙からインターネットが繋がるようになって、ツイッターを通じて我々のような一般人にもリアルタイムで写真を見せて、感動を共有したり。 こんな風景をタダで共有できるなんて。 技術の進歩、アイデアの進歩はすごいなあ、と。			

	本じゃなくてもツイッターで見れそうなので星は低めです。			
	1-119ページ	119P (10分)		2012/07/13 14:12:03

のん ☆☆☆☆	大洋に浮かぶ島やオーロラなど自然の美しさ、そして夜景や埋立地など人工物の美しさをとらえた写真の中に、地震や津波で人工物が破壊されている写真をみると、美しさの背後にある地球のふつふつとしたエネルギーを感じます。			
	全部	120P (20分)		2012/07/10 23:02:50

しゃおろん ☆☆☆☆	遥か上空からでも、人の生活を窺える。 都市の動線、結節点、境界。 都市の形態はどれ一つとして同一のものはない。 森、海、山、川、岩場、雲。 自然の形態もまた同一のものはない。 地球はどうしてこんなにも多様で、豊かなのだろう。 そういえば、河川を囲むようにできるまちをみていたら、ふとRiver Nameのことを思い出した。			
	2-111	110P (20分)	part　鶤	2012/07/06 15:38:36

ごん ☆☆☆☆	この本にある写真は現実の写真なんだ…！読み進めている間に何度自分に言い聞かせた事か。おもしろい地形があったり、きれいな色だったり、Google Earthでも探してみたい！ 12ページの東京の夜景は、渋谷、新宿、池袋etc栄えているところがよーく見えます！			
	1-120	120P (20分)	12	2012/05/16 13:31:36

かっしー ☆☆☆☆	はるか上空から見た地球の写真は一種の芸術のように感じた。 特に都市の夜景はとても美しいと思った。			
	2-111	110P (20分)		2012/05/07 22:43:53

コアラ ☆☆☆☆	宇宙から見る地球はとても綺麗に感じた。 この本を読んだ後、早速twitterで野口さんをフォローしました。			
	1-119	119P (10分)		2012/05/07 13:18:57

onion ☆☆☆☆☆	ありきたりな地球の写真というよりは、野口さんがきになったものを撮った写真集という感じ 一緒になって地球をみている気持ちになれる きれいな自然の景色もいいですが、個人的には開発された地形に驚きました 埋立地の垂直がしっかりでていること サウジアラビアの砂漠にある人工物(何かはみてのお楽しみ) 宇宙からもこんなにわかるんだーと思いました 測量技術半端ない！			
	1-120	120P (20分)		2012/04/20 16:49:42

サン ☆☆	さまざまな地球が写真で表されています。 本の中に、1つの美術館が入っているようなものですね。 時折、絵画のように見える写真もあり興味深いです。			
	1-110	110P (20分)		2012/04/18 00:33:52

最新世界情勢地図

著者名	パスカル・ボニファス	発行年	2011年
出版社名	ディスカヴァー・トゥエンティティワン	ページ数	143ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4799310083
コメント	世界地図で遊ぼ！ 工夫されたレイアウトで表現されたマップの一葉一葉から、資源配分や歴史やパワーバランスや、ほんとにいろんな「光景」が見えてきます。今日はイランから世界を眺めてみましょうか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
41 ☆☆	情報が一目でわかりやすいけど、何か地図にリアリティがなく世界の実情の実感がわかなかった。やはり、物事はデータとして処理されてしまうのかという印象を持った。			
	すべて	143P (30分)	p34-35	2012/07/31 20:27:14
TAN ☆☆☆	世界情勢の概要が説明してくれる本だ。 中国にとって、やはり社会問題と環境問題だ。			
	10-69ページと109ページ	60P (60分)	33ページ	2012/07/30 17:26:12
しゃおろん ☆☆☆	状況に応じて分類された地図を用いて、世界をマクロな視点に立ち概観するのは重要なことである。この本は大きな流れを捉えるという点ではいいと思う。個人的にラテンアメリカの情勢が気になった。			
	1-143	143P (80分)	120-123	2012/07/28 16:59:56
こっこ ☆☆☆	数値だけで見るよりも、地図上に示されているのでインパクトがあります。 日本から見た視点に偏りがちですが、違う視点から見れるのがよかったです。			
	1-143	143P (60分)		2012/07/27 01:53:10
yabaku ☆☆☆	普段、日本から世界を見る事がほとんどの自分にとって、面白い本だと思ったが、全体の説明だけでなく、詳しい解説も欲しかった。			
	1-143	143P (60分)		2012/07/18 16:22:37

luffy ☆☆☆	世界の地図を見れば、楽しかった。一国の視点に捉われるのではなく、立場の違う各国からの視点を解説してくれた。			
	143	143P (75分)		2012/07/10 17:00:41

midnight express ☆☆☆☆	地図は眺めているだけで楽しい。かつ世界情勢について情報を得られるので一度に二度おいしい地図です。			
	120	120P (30分)		2012/07/05 13:25:49

ダンボール ☆☆☆	地図を北極側から眺めるとわかりやすいこともあるという地味な発見。 世界からみると日本は変な国ということが頻繁に図解に現れているのが複雑な気持ち。			
	1-143	143P (50分)	バラ読みok	2012/07/04 09:13:11

w ☆☆	スケールを大きくすることで、捉えやすい面も捉えにくい面もある。正直、この本のように大枠で捉えてしまうことはつまらない。			
	1-143	143P (50分)		2012/07/03 15:22:50

上からトトロ（仮） ☆☆☆	国際間・国内間の不平等についての簡単な説明等がなされていてよい。ミレニアム宣言って2015年までだけどもうあと3年しかない。どうなるんだろ？			
	10-75	66P (70分)	p53	2012/06/30 21:26:58

F-H304 ☆☆☆☆	世界の様子が日本以外の視点からでも分かりやすく載っている。また、見開きの左ページは世界地図にイラストを乗せているため文章を読むのが億劫な状況でも気軽に読むことが出来る。また、世界のさまざまなところからの視点を載せてあるので、その日の気分でどこの説明をみるのか決めることが出来るのがいいと思う。			
	1-143	143P (30分)	全部	2012/06/28 21:07:07

しょう ☆☆☆	人類誕生から現在に至るまでの歴史を簡単に説明しており，それが非常に読みやすい．また各々の国から見た現状についても解説している．正直アメリカ，中国，日本しか現状について知らなかったので，カナダやトルコ，フランス等の思惑を知れて良かった．			
	1-143	143P (60分)	絵	2012/06/12 21:46:52

historians ☆☆☆☆	あらゆる事柄が、世界地図を用いて、わかりやすく解説されていた。 世界には数々の問題が存在していて、地図から考えられる仮説が存在するのではないか。 これからの吟味していきたい。			
	全部	143P (90分)		2012/06/12 12:20:33

ペンネーム考え中 ☆☆☆☆☆	日本で学ぶ世界情勢は、アメリカやアジア、あるいは日本と関わりの深いイギリスやドイツに偏重する一方で、トルコ、インド、スペイン、ブラジルといった重要な国については軽視されがちでは。 またそれぞれの、政治的判断や社会的問題についても「正しいこと」「間違ったこと」という切り分けを（たとえ明文化されていなくても）行わざるを得ない。 本書は、それぞれの立場を偏りなく解説しているという点において、非常に優れており、教科書・教材に採用されても良いほどの良著だと思います。			
	1-143ページ	143P (90分)		2012/06/05 00:46:07

プー ☆☆☆☆	改めて世界にはいろいろな国・文化があることを感じる. こういう地図を見て高校時代の地理・歴史の勉強をすると，関連が持てて面白いかも！？			
	10-69	60P (40分)	52-53	2012/06/04 20:33:24

R2 ☆☆☆	世界の歴史やグローバル化，人口や宗教などの世界の様々なデータ，各国から見た世界といったテーマを地図と合わせて解説している．なんか教科書を読んでいるようだった．地図は分かりやすかったが，文章が直訳っぽくて若干違和感を覚えた. 世界の近代の歴史や経済に疎かった僕にはとても勉強になる本だった．もっと読み込んで世界情勢通になりたいとも思った．これから社会に出ていく身として，世界情勢については知っておいた方が良いと思うので，読んでおいて損はないと思う．日本の周りについてだけでも読むと良いかも.			
	1-99,102-103,108-115	109P (180分)	108-115	2012/05/24 17:35:31

とんぺい ☆☆☆☆	歴史から民族、エネルギー、友好・敵対関係まで様々なトピックを地図で分かりやすく読むことのできる本です。 19世紀以後の近代史についての知識が浅い私としては(東工大生にも多いのでは？)、そのへんを興味を持って読むことができました。 ここ最近ホットな東アジアの話とかも読んでみて損はないのでは？ 個人的には不正取引が世界のGDPの2～5%もあることにびっくりです。			
	3-143	141P (150分)	20-25、54-55、108-115	2012/05/14 21:50:26

UT ☆☆☆☆	地図が多く使われていて分かりやすく情勢が説明されていた。			
	3-143	141P (115分)	20-25	2012/05/04 09:17:32

長野に先いかれた ☆☆☆	これは原著でちょっと見てみたいと思った。 文章の感じは直訳っぽく日本語だとダサさを感じる。 最近のBRICSのパイプラインの強さが図でよくわかってなかなかおもしろい。 またEUとラテンアメリカのパイプは案外大きいことに気付いた。EUとロシアの連携の今後の強化は注目すべき点であると思う。			
	14-55,73-119	88P (60分)		2012/04/25 12:40:43

とまと ☆☆	地図を使って世界の思想・政治・環境などを考えていく本でした。特に「文明の衝突(p32)」が面白かったです。 地図が数字を表すマークや矢印、文字など盛りだくさん！その反面、地図読めない＋活字苦手な私には、文章を読みながら地図をさーっと追うことが出来なかったです。。			
	27-63ページ	37P (50分)	32-33	2012/04/18 21:56:52

TOPへ

地球のハローワーク

著者名	ナショナル・ジオグラフィック	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	333ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4863130722
コメント	表紙の写真に一目惚れ。 人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Quuyi ☆☆☆☆	義務教育の子供にぜひ読んでほしい。日本は恵まれていると気づく。			
	全部	333P (30分)		2012/07/25 10:26:27
かやみん ☆☆☆	モノクロ写真の「立坑から土を運び上げる金鉱の労働者たち」の力強さに見とれた。まさに肉体労働のイメージを表してるのでは			
	1-334	334P (20分)		2012/07/25 04:27:48
takenokonosato ☆☆☆☆	四輪馬車の電力源はなんだろうかとおもった。 この馬車に乗って黄昏たい。			
	全部	333P (30分)	209	2012/07/21 17:21:31
のん ☆☆☆☆☆	生きるために、身を削りながら、選択の余地なく働いている人たちが世界にはたくさんいる。自分が何をやりたいのか考えたり迷えたりできる自分は、とても幸せなのだと思った。			
	全部	333P (30分)	114,115,192ページ	2012/07/11 06:16:43
七氏 ☆☆☆☆☆	いろんな人間がいて、いろんな生き方がある。 ということをダイレクトに伝えてくれる。 今後自分が就くこともないであろう職、 送ることもないであろう人生、 そんなものの片鱗を垣間見させてくれる。			

	画集としては物凄いパワーを持っていると思う。是非欲しい。			
	全部	333P (30分)		2012/07/10 20:47:24

だもん ☆☆☆☆	236ページの美少女コンテストに向かう娘と母の写真がなんだか気持ち悪かったです。			
	全部	333P (50分)	116.117.236	2012/07/10 12:44:52

bird ☆☆☆☆	普段は隠されている(?)牛の解体処理場や日本では見られない風景、工場など汚いところから綺麗なところまで網羅的に写真が載せてある。 こういう写真の悪いところであるのかもしれないが、芸術的っぽくした日常感が前面に出すぎていて、日常そのままの写真ではないのではないかという疑いが出てくる。			
	333	333P (60分)	79,84,176~177	2012/07/02 14:08:13

wors ☆☆☆☆	地球の1930年以降の様子が視覚からわかる。 地域ごとの差や年代での差など色々考えさせられる写真も多く 得るものも多いと思った			
	全部	333P (30分)	249	2012/06/27 10:32:08

gorugo13 ☆☆☆☆	119ページの『ドーム型のステレオを頭からかぶりリラックスする証券トレーダー』が、秀逸過ぎます。			
	1-333	333P (20分)	119	2012/06/19 12:59:39

onicapla ☆☆☆☆☆	もう、いっそ文章なくしちゃって良いと思う。小難しいことはわからなくても、写真だけで、写真に写る人の目を見ればわかるから。 大学院、休学して旅するのも全然ありだなあ、絶対海外にはもっともっと行って多様な価値観や生活とふれあうべきだなあと感じた。			
	1-335	335P (50分)	目に留まった所	2012/06/12 18:19:14

TAN ☆☆☆☆	さまざまな種類の仕事、さまざまな人生。			
	全部	335P (45分)	252-253ページ	2012/06/11 15:29:02

historians ☆☆☆☆	これも職業なのかというものも多々あった。 「働くこと＝生きること」というフレーズがあったが、自分もそろそろ働くことについて考えていかなければならないと感じた。			
	全部	333P (30分)		2012/06/05 12:41:15

onion ☆☆☆☆	世界にはいろいろな仕事があるんだなと思った。面白そうってものから、絶対いやだなってものまで。働くのは大変だ！では片づけられない何かがあるのでしょう。 315ページは仕事というか風景ですが、えっこれラベンダー？って思ったので。			
	1-335	335P (30分)	315	2012/05/28 20:28:41

	豚や牛が食肉になるところ、赤ん坊が物乞いのため道に放置されているところ、子供が殺意でもあるかのような鋭い目つきで拳銃をつくっているところ、リアルでショッキングな光景がこの本には載せられている。その他に、日本では考えられない苦労を伴う仕事。

ナラヅケ ☆☆☆☆☆	これを見て、私たちが何を思い、何を考え、どう行動するかは、それぞれの自由である。 しかし、この本を読んで、一つ言えるのは、私たちが日々抱える悩みなんて、ほんとちっぽけだということだ。			
	all	333P (30分)		2012/05/25 19:21:50

俺が村田だ！ ☆☆☆	何も書いてないから色々考えた。			
	全部	330P (10分)	114-115	2012/05/15 15:17:22

長野に先いかれた ☆☆☆☆	2点書きたい まず、かなり古い写真にもかかわらず鮮明に働く写真が写っているのはすばらしいし正直驚いた もう一つは、働く現場をneutralにとっていることがいいと思った。つまり、宗教、経済におけるconflictに配慮してる感じがあり、これによって物事を忠実に描くことを可能にしていると思う。アングルあるいはとる場所を変えて移せば過激な写真も撮れるだろうけどそういったバイアスがないことが非常に気に入った。 日本の特にテレビ番組はこういった制作をもっとやってくれればと思う。(最近本当にスポーツ番組以外価値がないんじゃないかと思う)			
	1-335	335P (50分)	134-197	2012/05/08 20:11:26

oiltaro ☆☆☆	働くということが生きるためなんだということを再認識できた。日本にいると働くことが生きるために必要という感覚が薄くなる気がする。働くことについて考えさせられる。			
	1-335	335P (30分)	192	2012/05/01 09:21:37

F-H304 ☆☆☆	地球上で今、我々が大学生活を楽しめている（つまらない！という突っ込みは禁止）のは偶然であり、世界では自分達より小さな子供も生きるために必死に働いている人も多い。この写真集をみるとそのことを強く感じることが出来るだろう。だから、今我々が出来ることは生きていることに感謝することとそして世界が平和になるように我々がするべきことを考え、実行して行くことであると思わずにはいられない。			
	1-333	333P (30分)	全て！	2012/04/28 21:02:42

41 ☆☆☆	いろんな仕事の現場や働く人の写真があるが、それぞれの人のモチベーションがはっきり分かれていることがよくわかります。			
	1-333ページ	333P (20分)	278-279ページ	2012/04/24 12:52:29

R2 ☆☆☆☆	世界各地の，様々な時代の人々が働く姿が写されている． 仕事，働くということには，本当に多種多様なものがあるのだと実感させられる．生きるために働く人たちの姿はどれもリアルで力強く，人間くさいものだった． 114ページからの写真は衝撃的だった．			
	1-335	335P (50分)	76-79，114-117	2012/04/18 12:28:03

こっこ ☆☆☆	各地の各時代の働く人の姿が描かれていて、言葉では語られていないけれど、響くものがあります。 特に立ち読みポイントで選んだページが印象的でした。			
	1-335	335P (30分)	114-119	2012/04/17 12:11:14

TOPへ

アフリカ・レポート

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	199ページ
値段	700円	ISBN	978-4004311461
コメント	ジャーナリストさんが伝えるアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないけれど、経済学を勉強しているなら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問１ 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問２ 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
かやみん ☆☆☆	中国人のアフリカに進出して行く様子が興味深い。どんどん国外に自分たちの大きなコミュニティを作り上げて支配していく姿勢には多少の嫌悪感を覚えてしまった。			
	1-52,82-147	118P (90分)	84-123	2012/07/09 19:32:26
w ☆☆☆	国家とは何なんのか。アフリカの現状は、そんな問いかけをしてくるように感じた。国の矛盾やひずみが顕著に現れているアフリカに、何かをしてあげることはできるのだろうか。			
	1-79	79P (50分)		2012/07/09 17:22:12
F-H304 ☆☆☆	今のアフリカの現状を、まざまざと知ることができた。今までは、ただＮＰＯに募金だけしていればいいのかと思っていたが、それが十分に住民に行き渡っていないという事実を改めて知ったので、他の方法を考える必要があると強く感じた。			
	1-199	199P (60分)	なし	2012/07/09 10:36:09
とんぺい ☆☆☆☆	「インフレ率がハンパないジンバブエドル」のことは聞いたことあったけど、詳しくは知らなかった。その経緯などを知ることができました。 アフリカの政治のありさまを見ると日本の政治家がかわいく思えてくる気もするけど、それでもちゃんとやるべきことやってもらわなくちゃね！ 前半のリアルな現状もあれば、後半の希望を持てる内容もあって、アフリカが少し近くなりました。			
	全部	205P (180分)	1章、６章	2012/07/05 16:43:54

UT ☆☆☆☆	アフリカについての取材記事を再編集。独裁で名高いムガベのジンバブエ、アフリカ連合本部の建設資金をすべて拠出したことでも知られる中国の進出など、よくわかる。			
	1-147	147P (110分)	第1章	2012/06/06 15:19:31

だもん ☆☆☆☆	日本で暮らしていると、アフリカで起きた出来事を知る機会はほとんどないです。もちろんネットで海外のニュースを見れば、アフリカに関するものもあるけれど、日本語で書かれたものを探すのは難しいでしょう。なので、この本は大変貴重だと思います。（4年前の本ですが）			
	全部	200P (180分)	6章	2012/05/31 14:57:04

bird ☆☆☆	この本では、アフリカでは植民地支配の名残の国境線のために異なる部族間での争いが起こっているという常識的な事柄を具体例を挙げながら説明をしていて、その知識に深みを持たせることができる。また、中国人のアフリカ進出、新しい支援方法についても言及してあり、アフリカが新しい局面を迎えつつあることを感じることもできる。			
	1-200ページ	200P (140分)	vii~x	2012/05/13 14:31:03

ge90 ☆☆☆☆	アフリカは発展途上国、開発途上国と長年言われてきたが、状況がなぜ改善しないのか、また近年改善に向けてどのような活動が行われているかが取り上げられている。なかなか報道でも知ることのできない内容で興味深かった。			
	1-205ページ	205P (250分)		2012/05/08 13:02:18

midnight express ☆☆☆☆	50年前のアフリカは植民地支配を脱却し、未来への希望にあふれていた。のに、いまなんでこんなに絶望的な状況なんだろう。治安の悪さや貧困格差の裏に隠された経済的な論理を明快に説明してくれる。そんな中でも「恵まれない人々」ではなく、力強く生きている人々の姿が描き出されている。			
	全部	200P (60分)	アフリカの中国人	2012/04/25 01:36:03

Quuyi ☆☆☆☆	普段、アフリカのことをあまり知らない人にはかなりお薦めです。文章が読みやすく、具体的な数字もあるのでイメージしやすいです。			
	電車の中	200P (130分)		2012/04/15 01:51:55

TOPへ